

金剛寶戒寺便

<https://www.houkaiji.jp>

令和三年一月一日発行 第八十二号

檀信徒の皆さまあけましておめでとうござ
います。本年も宜しくお願い申し上げます。
皆さんはどの様な思いで令和二年を送り、新
年をお迎えされたでしょうか？

諸行無常はお釈迦さまの基本思想でこの世
の真理でもあります。同じことの繰り返し
の真理でもありません。同じことの繰り返しの
様に感じる日常も、常に移り変わり、全く同
じ毎日ということは有りません。しかし普段
はその様な事を敏感に感じにくいのが現実で
す。その様な中、昨年はコロナウイルスが蔓
延し季節の行事なども軒並みに中止となりま
した。人との付き合いなど、当たり前が当た
り前でないと感じる事が多かったのではない
でしょうか。この諸行無常と共に仏教の基本
思想が一切皆苦です。一切皆苦とは生きて行
く上で避ける事の出来ない苦しみが存在する
という教えです。その代表格として四苦八苦
をあげていきます。日常の全てが「苦」と感じ
ている人は少ないと思いますが、愛する人との
嬉しい出会いも、時の移り変わりと共に悲し
い別れにつながります。人生を俯瞰して考え
ると一切皆苦も真理であると私は思います。

昨年はお葬式にさえ立ち会えず、お別れを
した人たちの報道を見ました。またお檀家さ
んの中にも施設などに入っていた方は亡くな
る前にお会いしたのが半年前だったという方

もいらつしやいました。今の社会に老健施設
などは欠かせませんが、施設は寿命を延ばす
ところなのか、命を活かすところなのか？難
しい問題でもあります。幸せとは何であろう
か、人生や死についても深く考える一年でし
た。人はなぜ死ぬのか？そもそも自分は何歳
まで生きたいのか？どの様な最期を迎えたい
のか？自問自答をした一年でもありました。

話は変わりますが、昨年十二月の講習会
「四諦八正道と瞑想」と題してお話をさせて
頂きました。四諦八正道を一言でいうならば、
四つの真理と悟るための八つの実践方法です。
悟りイコール心の平安と考えるならば、悩み
の解決方法と理解をしても良いと思います。
四諦とは一、苦諦（避ける事の出来ない苦が
有るといふ真理）二、集諦（苦しみには原因が
有るといふ真理）三、滅諦（苦しみの原因「渴
愛」を見つけ、制する真理）四、道諦（渴愛を
取り除く方法）の四つです。字から誤解を招
いてしまいうすですが滅諦とは渴愛を滅する
のではなく渴愛を制御、もしくは停止させる
という事です。そのための方法が道諦であり、
実践方法として八正道を示しています。

八正道とは①正見（正しい見解）②正思惟
（正しい考えや心）③正語（正しい言葉）④正
業（正しい行い）⑤正命（正しい生活）⑥正精
進（正しい努力）⑦正念（正しい記憶と反復）
⑧正定（正しい瞑想）の八つのことです。これ
らは独立しているのではなく、連動する事に

より中道を生きることが出来るようになりま
す。この様に「正しい」が多く並ぶと難しく、
自分には出来ない事のように感じるかもしれ
ません。「正しさ」の定義は難しいですが仏教
の正しいとは「善」と近く「人を傷つけず、人
の為になることを人の身になつて考え行動す
る」という様に私は考えています。思いやり
の心や考え、言葉、行動を持つての正しい生
活を繰り返し送ると、落ち着いた心で瞑想が
出来るようになり偏りのない見解が芽生え、
因縁生起を理解し、中道を歩めるようになる
のだと思います。人を立てれば蔵が建つとい
う諺が有るように、八正道の生活が大変なの
ではなく、自分本位の生活に苦しみが伴うの
ではないかと今は理解しています。

来月は節分です。節分と言えば二月三日と
思いがちですが、今年は暦の調整で二月二日
が節分、三日が立春となります。例年通り星
祭りのお札をお出します。今年の本厄は男
性が平成九年、昭和五十五年、昭和三十六年
生まれ。女性は平成十五年、昭和六十四年（平
成元年）昭和六十年生まれの方々です。

日時 二月八日（月曜日）十四時から
場所 金剛宝戒寺本堂に於いて
演題 「お釈迦さまの言葉と瞑想」

コロナ禍で様々な考え方が有ると思いま
すが、講習会の予定をしています。決して無理
のない参加をお願い致します。

合掌